

## 別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあつては名称) 株式会社ウェルファムフーズ		住所	(法人にあつては主たる事業所の所在地) 〒102-0074 東京都千代田区九段南二丁目1番30号	
本票作成	部署名：リスクマネジメント部				
主たる業種	分類コード	09	業種名：食料品製造業		
事業の概要	ブロイラーの肥育、処理、加工 岡山事業所従業員数：224名（2019年3月）				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	岡山事業所 岡山工場		新見市西方1567	
	②	岡山事業所 吉家E農場		高梁市備中町西山2415	
	③	岡山事業所 足見A農場		新見市土橋37	
	④	岡山事業所 豊永A農場		新見市豊永赤馬3240-1	
	⑤	岡山事業所 足見B農場		新見市足見2177	
	⑥	岡山事業所 吉家B農場		高梁市備中町西山2540-2	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO <sub>2</sub> 換算3,000t以上 <input checked="" type="checkbox"/> (●工場等の数 23 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 26 年度)	(平成 30 )年度排出量	目標年度(令和 1 年度)
	10,816 t CO <sub>2</sub>	13,657 t CO <sub>2</sub>	12,017 t CO <sub>2</sub>
主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 30 )年度排出量
	①	岡山事業所 岡山工場	7,020 t CO <sub>2</sub>
	②	岡山事業所 吉家E農場	629 t CO <sub>2</sub>
	③	岡山事業所 足見A農場	469 t CO <sub>2</sub>
	④	岡山事業所 豊永A農場	319 t CO <sub>2</sub>
	⑤	岡山事業所 足見B農場	319 t CO <sub>2</sub>
	⑥	岡山事業所 吉家B農場	252 t CO <sub>2</sub>

削減目標の達成状況	計画期間：平成 27 年度 ～ 令和 1 年度 ( 5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	( 30 )年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	△ 4.6 %	5.0 %	<input type="checkbox"/> 達成 <input checked="" type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 岡山工場の生鳥処理重量	原単位当たり排出量		
		基準年度	( 30 )年度	目標年度
		0.394 t CO <sub>2</sub> /(トン)	0.412 t CO <sub>2</sub> /(トン)	0.375 t CO <sub>2</sub> /(トン)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 30 年度)	達成率等

## 【削減状況の自己評価】

2018年度は、主に以下を理由とし、目標を達成できていない。

- 工場では食鳥解体設備の改造・新規導入を行ったことや、製品品質向上のため空調の稼働を上げたことにより、電力使用量が前年度から増加した。
- 農場では、鶏糞を燃料とするバイオマスボイラーで床暖房を実施しているが、2017年12月頃、補助燃料をRPF（固形燃料）から木材（パークチップ）に切替えた。これにより燃焼補助効果が低下し、これが2018年度は通期で影響したため、LPG使用量が前年度から増加した。

**【推進体制】**

- ・岡山工場を運営する製造部、農場を運営する農場部それぞれに、エネルギー管理員有資格者を配して、省エネルギーに取り組んでいる。
- ・2015年度より、工場の設備管理の専門部署である工務課を製造部に設け、省エネルギーを含む設備管理をより推進できる体制となっている。

**【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】**

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
岡山事業所 製造部(岡山工場)	<p>(2018年度実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイマーによる空等設備の制御を継続し、夏場の電力使用量削減に取り組んでいる。</li> <li>・省エネルギーセンターに省エネルギー診断実施を依頼し、2018年9月に訪問診断を実施。</li> </ul> <p>(今後実施予定分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存証明のLED化を順次進めていく。</li> <li>・省エネルギー診断で提案を受けたエネルギー削減策を検討する。</li> </ul>
岡山事業所 農場部	<p>(2018年度実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化した屋根の張替えや断熱カーテンの設置により、鶏舎の断熱を強化し、結露防止と冬場の保温を実現。</li> </ul> <p>(今後実施予定分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、老朽化した鶏舎の断熱強化を順次行う。</li> <li>・2019年度以降に建設する鶏舎は、断熱能力の高いものとし、鶏糞原料のバイオマスボイラーで床暖房を実施する予定。</li> <li>・2018年度以降、鶏舎1棟に温湿度センサー、CO<sub>2</sub>センサー、Webカメラを設置し、データを蓄積中。エネルギー管理含め、最適な管理への検討を継続していく。</li> </ul>

**【森林保全等吸収源対策への取組】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【再生可能エネルギーの導入】**

県内での取組	有	鶏糞焼却炉の熱を隣接する鶏舎で使用する熱源（以前はLPG）として、14農場で導入している。
その他	有	上記と同様の仕組みを宮城県の農場の一部でも導入している。

**【その他特記事項】**

--